

と能う寝さらしたモンやなア……又しても双物三味怖くは無いが、今朝の一言氣に懸る。いとろとはトにトほへとサツサちや……(ア、吉やんや無いか。コレお少婢やん。吉ちやんが表を素通りするがナ、早ふ往て留めてえナ、チョツと吉ちやん……庭へ飛で降りるなり下駄と草履を片ちんばに履いて。ガタボソくく……)「チョツと、吉やんや無いか、何で素通りするのやいな、なア云ふたら吉ちやんいな云ふたら……え、ナ云ふたら……」(五月蠅いワイ。吉ちやんや無いかとは何ふや。昨日や今日の馴染や無し。大てい嗅でも解り相な物やろ……)「サア吉ちやんや思た依てに、吉ちやん云ふたんや無いか。なアて……そんな怖い顔するのん嫌や、云ふのに。なアて……這入りんかいな吉ちやん……早ふ云ふたら……(放してんか。錢が無いので泊りが買えんのや)……(又あんなイケツ云ふて……何時でも、錢が無いから昇つてるや無いか、何で今日に限てそんな事云わん成らんや、……お少婢やん是れ持て、横町で按配しといで……)……締めてた緋扱帯をクルくと丸めてお少婢に渡しよる、……(何して、やね、早ふ昇りんかいナ)……トンくと昇て部屋へ這入るワ……(オイ一杯飲むで。何でも抱めへん鳥渡そふ云ふて、一本酢けといで……てなもんや……)「マア吉やん、何刻やと思ふてるのや……(サア何刻やろなア)……(モウ八刻前やがな)……(そない能う知てる者が何で知らん者に訊くのや)……(サアいな。最うこない晚いのや依つて、また明日でも、ゆつくり朝から飲んでやつたら宜えや無いか。なア。もう今夜は飲まんと寝なはれいな)……(フーム。すると何か

夜が更けたら酒が飲めんと云ふのか。汝りや俺れの口を乾絞めるのか)……(何も乾絞めるのや無いけども、今頃から飲むで寝たら毒やさかい、辛抱しなはれと云ふのや無いか、貴方そない妾いの云ふ事諾かれんか)……(愚圖々々吐す事無いワイ。黙つて持て来いツ)……(何んで其んな無理ばつかり云わんならんネ)……(云ふたら何ふしたんぢやい。ど多福奴)……(お多福は生れ付きや)……(コラ洒落やかつて、口答えさらしたナ)……(ア叩きやがったナ。女を叩くは犬猫を叩くのも同然や、さア何ぼなと叩け)……(オ、何程でも撲つたるワ)……(ヒー。サア殺せ)……(ドタバツタンと遣ると婆が吃驚して昇て来よる……)「コレまア吉やん、何ない仕たんやいな。鳥渡まア待ち云ふのに……(イヤお婆はん放つといて。こんな餓鬼なアく云ふてたら癖になるネ)……(お婆ちやん拘まわんと降りかくなはれ。ど甲斐性の有る丈け叩かしたるね)……(コレ何やいな此妓は女だてら。そんな事云ふさかい男を怒らすのや。又吉ちやんも吉ちやんや。そんな手荒い事せんと、按配云ふて聽かして遣たら良えや無いか。全態何ない仕たと云ふのやいな)……(お婆はん聽いて。大體人を莫迦にしてケツかね。俺が酒を飲む依つて、其拵らせせえと云ふのに、いやモウ晚いの。ヘツチャクレやの、逆らふ様な事ばつかり云やがんネ)……(イーエいな、お婆はん。飲むなと云ふのや無いけどなア、夜が更けてからは毒やさかい。明日の朝にしなければ云ふたら。口答えする云ふて、叩くのやがナ)……(そりや吉やんが無理や。併し貴女も悪いで)……(何んで妾いが悪いのや)……(イヤ悪い。こら今晚飲ましたら